

ふるさとの鼓動
北に生きる心
むすんで

こぶし

第123号

発行責任者：横井正人

特定非営利活動法人 民族歌舞団こぶし座

TEL/FAX: 0 1 3 8 - 5 4 - 2 8 5 9

E-mail: kobusiza@m19.alpha-net.ne.jp

2007年1月1日発行

編集：機関紙局

北海道函館市陣川町 122-172

年3回発行

http://www.aa.alpha-net.ne.jp/kobusiza

主な内容

- (1) 新年のごあいさつ
- (2) 一般公演の取り組みから
- (3) こぶし座に期待する
- (4) お知らせ

謹賀新年

本年もどうぞよろしくお願い致します

二〇〇七年 元旦

特定非営利活動法人(NPO法人)
民族歌舞団こぶし座社員一同



(金城公雄・絵)

- 理事長 横井正人 (座員)
- 理事 中尾雄児 (座員)
- 理事 計良 徹 (座員)
- 理事 計良正子 (座員)
- 監事 金城公雄

- 横井ひとみ (座員)
- 松岡智恵美 (座員)
- 田畑悟志 (座員)
- 村田さつき (座員)
- 橋本かおり (職員)
- 岩島 司
- 梶原康男
- 國田修司
- 西東英範
- 志賀松 晋
- 志賀松智恵美
- 古川喜美子
- 三浦恒雄
- 三浦芙美子

新年のごあいさつ

理事長 横井正人

謹んで新年のお祝いを申し上げます。

昨年の記念公演では多くの方から励ましやご協力を頂き、新しい作品での全道公演を行う大事な出発点にすることが出来ました。賜りましたご支援に対して心からお礼申し上げます。

秋からの一般公演では、記念公演の感動と新しい出会いへの期待を胸に各地域を回りましたが、どの会場も客席から拍手やかけ声がかかり、笑いも出るなど観客と一体となった舞台となり、これからの活動への確信を持つことができました。

公演後の交流会では実行委員会や文化協会の皆さんが、地域の中で文化の火を長い間灯し続けてきたことに誇りと喜びを持って語り歌う姿にふれ、地域でがんばる人達がいてこそ、私達こぶし座も続けてこれたのだと実感致しました。

お忙しい中、公演を準備して下さった各地域の皆さんには感謝の気持ちでいっぱいです。

さて今年も、全道各地にいつそう公演を広めること、そして「こぶし座基金」の取り組みを大きく前進させることを柱に活動して参ります。

今、様々な政治状況の変化から住み慣れた土地で暮らすことがいつそう困難な状況が生まれ、過疎化によって地域崩壊が進み、公演が出来ない所も増えてきています。また各自自治体予算の減、授業時数の減から芸術鑑賞がなくなり、学校公演の回数も激減している状況です。

この厳しい状況を乗り越えて行くには、私達の力だけではどうしても足りません。

これまで、NPOの精神でこぶし座の活動をたくさんの人達と共に進めることを模索し、「昨年からの一つとして、基金」による財政支援をお願いして参りましたが、今年はより多くの皆さんにご協力を頂けるようにパンフレットを作成し、新年早々ではありますがお封させて頂きました。

生きる喜び・働く誇り・明日への夢を語り合える活動をめざし、座員一同、力を合わせ進んで参ります。

皆さんのいつそうのご支援を心よりお願い申し上げます。新年のごあいさつと致します。

一般公演を取り組んで...

新しい演目での一般公演が、いよいよスタート!!
木古内町・八雲町・共和町の取り組みを紹介します。

昨年十一月、創立四十周年記念公演の新しい作品を持って、七市町で公演しました。

初日の八雲町では「若人の集い」による実行委員会が取り組んでくれ、南幌町では文化協会が主催し前座に「なんぼる俵つみ唄」の歓迎演奏がありました。

中富良野町では文化協会創立五十周年記念として、男性役員全員が「江差のもちつきばやし」を踊り、また共和町では開基百五十年記念事業として実施され、「共和もちつきばやし」の演奏後に「俵半もの餅がまかれました。

木古内町・比布町・旭川市では地元の方々から応援をもらい、こぶし座が事務局を担当する自主公演を行いました。

今、景気が落ち込み文化費が削られている時ですから心配もありましたが、町づくりの一つとしてこぶし座を迎えてくれ、「今こそ出番ですよ」と、私たちは背中を押されるような励ましをもらい力が湧いてきました。

制作部 中尾雄児

八雲町公演を終えて

実行委員長 佐藤正之

開演前に舞台の幕の影から会場を見渡すと、たくさんのお客さんが目に入り、驚きとともにほっとした瞬間でした。今回のこぶし座公演の取り組みは、準備が遅れ、公演の1ヶ月前に実行委員会を立ち上げたという状況でした。

* * *

私の中では、かつて若人の集いで一緒に活動した田畑君のいるこのこぶし座八雲公演に特別の思いがありました。が、全体の取り組みを通じて地域の皆さんと関わり、公演準備やチケット売りを経験することで達成感や仲間同士の信頼関係を築くことができたと感じていました。しかし、事前のメンバー間の話し合いが少なく、公演の準備やチケット売りが初めてのメンバーも多い中で取り組みの目標がみんなに浸透していませんでした。

実行委員会には、常に7

10名が集まりチケット集約や公演の準備、餅つきばやしの練習などを行ってきました。チケットの売り上げは、はじめはなかなか伸びず、はららどきどきの連続でしたが、

最後は何とか赤字にならず終わることができました。実際、当日いらしたお客さんも多く、やはり地道に地域に根ざした活動をしてきたこぶし座の力だと感じました。公演当日はたくさんのお客さんが入り、ちよつと冷や汗の出たメンバーの餅つきばやしも無事に終わり、交流会も盛り上がりました。反省点も多い取り組みでしたが、この経験を私達の地域の活動につなげていければと思っています。

* * *

最後に公演に足を運んで下さった皆さん、こぶし座の皆さん、実行委員のメンバー、協力して頂いた方皆さんに深く感謝しております。ありがとうございました。

「この街が好きさ
きみがいるから」
共和町
古谷美恵子

こんな気持ちで一人でも多くの人と通い合わすことができたからと始まったこぶし座の取り組みでした。

高石ともやが京都を歌った「街 この共和版を若者達に創ってもらおう。そして、会場に足を運んでくれた人達と一緒に口ずさめたら素敵だな。そんな私の思いに付き合ってくれた若者三人。聴いたこともなかった歌を覚え、共和バージョンを創ってくれました。そして、開基150年ということと6回目の公演ということで、もちつきばやしの演奏も共和町という提案がこぶし座からありました。

* * *

11月までには、間に合わないのではと躊躇している私に、「俺、歌ってもいいよ」「どうせやるのなら本番で俺たちだけで吹けるようにしたい」という力強い仲間の言葉で今回の演奏が実現しました。

また、つき手が5人足りないと聞いた時、その場で携帯電話をかけ合って仲間を集めてくれた4Hクラブの若者。12名の農業後継者との出会い



成しました。天候にも恵まれ、360名の人達が会場に足を運んでくれました。

『北の漁師の昔語り』には、「俺たち百姓は絶対に土を離れちゃ生きられねえ」共和もちつきばやし「誕生の記念すべきこぶし座公演になりました。

忙しい公演の合間をぬって共和町に足を運び指導して下さい、みんなの力を引き出してくれたこぶし座の皆さん、ほんとうにありがとうございました。

『共和もちつきばやし』

詞・古谷美恵子

今年が開基150年 みんな揃って餅つきだ
共和の自慢の見せ所 さーさ皆さん手拍子を

ワイスの山から見ろせば 裾野に広がる共和町
雪解け水の恵みを 受けて息づく田や畑
親父の開拓精神を 受け継ぎ続ける若者が
心を込めて作り上げ 生きる喜び伝えます

アイヤー ソレンレ
家族総出で収穫だヨ スイカ投げなら任せとけ
スイトコーンの朝もぎはネ 夜露つけて甘みます
ネットが気になるメロンはネ 温度調節大事だよ
黄金色に垂れ下がる 夕日に輝く共和米

俺たち百姓は絶対に 土を離れちゃ 生きられねえ
ドッコイサッ サドッコイナ
心一つに力を合わせ ついたこの餅強い腰

長い歴史のこまに 刻もうみんなの心意気
ついたついたぞこの餅を 食べてみんなで頑張ろう

木古内町公演報告

制作部

横井ひとみ

木古内町での公演は、一九七八年以来14年ぶりになりま... 文化団体協議会事務局長・竹田さんの「協力するからやってみては...」の力強い応援を受けて、座の主催で公演する事にしました。竹田さんは各サークルに細かく配券し、60名近くも誘ってくれました。又、今年6月の函館で

民族歌舞団こぶし座の皆様へ

...公演後に届いた、南幌町からの嬉しいお便りです。

このたびのこぶし座南幌公演、大変ありがとうございました。久しぶりに皆さんの公演を見ることができ改めて感動いたしました。地域に根ざした伝承芸能、私たち日本人の心に響きますよね。会場との一体感もありましたし、中には涙を流しながら見ていた人も...

今回は、前日の準備から、公演、懇親会とあまり落ち着く時間もなく、時間に追われるように目まぐるしく、大変お疲れになったことと思います。公演でお疲れのところ最後までお付き合いただき、更には公演以外にも多様な芸をみせていただきありがとうございます。私もいろんなレセプションを経験しましたが、こんなに盛り上がったことは初めてです。特に吉田会長は、そうとう嬉しかったのかあのようにはしゃいだ姿を初めてみました。こぶし座の皆様も全国いろんなところを訪

の記念公演に参加してくれた太田さんは、町内をはじめ隣り町の知内町にまで一緒に回ってくれ、知人宅を訪ねては「何名までいったの」と親身になって心配してくれました。本当に心強く、ずいぶんと助けられました。町には、統廃合から地元の高校を守るうと「夢を実現させる学校 木古内高校」の看板、そして「寒中みそぎ祭り」のポスターや「咸臨丸の眠るサラキ岬」の看板が立てられ、活気を願う町の人たちの思い

が伝わって来ました。いよいよ公演当日、受付は木古内高校の元気な生徒たちが手伝ってくれました。最後まで不安だった参加者数も予想を上回るということになり、急遽、椅子を運び込むという嬉しい悲鳴で、大成功に終わりました。



『札幌公演成功に向けて』

こぶし座に期待するもの

札幌こぶし座応援団々長 星野 康

ラッセラーラッセラーのかげ声と、教師たちのお囃子でグラウンドいっぱい、2年生3年生が今別荒馬を踊った今年の運動会。「元氣いっぱいの子どもたちと民俗芸能を出会わせたい」青年教師のそんな思いから始まった取り組みでした。踊り終えた子どもたちの清々しい表情は、何物にも変えがたいものです。

子どもたちの笑顔を大切にしたいと思うのは、私たち教師だけではないでしょう。12月9日、16回目の民舞のつどい。札幌民舞研が発足してから続いてきた、学校や地域で舞い踊り、そして和太鼓を鳴り響かせている子どもたちや青年の発表・交流の場です。お父さんお母さんばかりでなく、おばあちゃん、おじいちゃんもたくさん見に来てくれました。

とめられたようでした。それは「やらせ」と「サクラ」でこり押ししようとしていた教育基本法「改正」に、多くの国民が胡散臭さや「汚い」意図を感じていた気持ちとびつたりと重なっていました。3月2日、久しぶりにこぶし座地域公演が札幌にやってきました。

「伝統芸能の継承・創造・普及を行うことを通じ、地域文化の発展と向上を図り、もつて文化・芸術の振興に寄与する」ことをうたう民族歌舞団こぶし座は、札幌の地にたくさん種を蒔いてきました。学校や保育園などでの公演や、踊り・太鼓・篠笛などの講習会。それは、文字通り、伝統芸能に触れることで、地域や郷土のつながりをあらためて考え直す機会となりました。また、自分たちが舞い踊ることで、身体を見つめなおし、人と人のつながりを考えさせてくれました。

一粒の種が芽を出し、花を咲かせ、また種を蒔く。そんな営みをもつ一回り大きくさせるのが今回の公演です。多くの人に声をかけ、会場いっぱいの仲間たちと楽しい一日をつくり上げたいと思っています。

わたしが勤務する手稲鉄北小学校は、昭和40年の開校の際、次の一節「教育の目的（教育基本法第一条）この目的を達成するため、地域の実態から鉄北小学校教育目標を次のように定める。」から教育目標の解説を始めています。

42年目を迎えるこぶし座の歩み、そしてわたしたちが実践してきたことの確かさに確信を持つことは、こんな時代だからこそ、必要なことなのでしょう。

【札幌民舞研】札幌民俗舞踊教育研究会は、札幌市や近郊の小学校に勤務する先生を主なメンバーとする踊り・太鼓好きが集まった団体。

一九九〇年に発足し、これまで民俗芸能が今でも受け継がれている地元を直接訪ねて踊りや太鼓を習うという活動をひとつの柱として行ってきた。

そして、多くのメンバーは自分の勤める学校や地域の子どもたちとともに地元で習った民俗芸能を楽しんでいる。活動は原則として月2回。最近では、民舞研のメンバーの教え子も入会している。

「教育基本法が変えられようとしています。子どもたちの幸せのためにも、変えさせるわけにはいきません！」開会あいさつでの代表の言葉です。ちよっぴり政治的な話題でも、参加者には自然にうけ

「教育基本法が変えられようとしています。子どもたちの幸せのためにも、変えさせるわけにはいきません！」開会あいさつでの代表の言葉です。ちよっぴり政治的な話題でも、参加者には自然にうけ

「教育基本法が変えられようとしています。子どもたちの幸せのためにも、変えさせるわけにはいきません！」開会あいさつでの代表の言葉です。ちよっぴり政治的な話題でも、参加者には自然にうけ

「教育基本法が変えられようとしています。子どもたちの幸せのためにも、変えさせるわけにはいきません！」開会あいさつでの代表の言葉です。ちよっぴり政治的な話題でも、参加者には自然にうけ

